

長野電鉄屋代線跡地を利用した自転車歩行者専用道路について  
【ご意見】（令和7年7月11日受付）

路線の跡地を歩行者や自転車の専用道路として整備し、子供の通学ほかに利活用することはいいことだと思う。

しかしながら、すでに出来上がっている部分を見ると、アスファルト舗装が全体的に施され、両側は立派なフェンスに囲まれている。しかも、道路真ん中には何故かポストコーンが設置され、センターライン（白線）まで引いてある。しかしながら、通学する子供はもとより利用者はほとんど見当たらず、金をかけて整備した効果が上がっているようにはみえない。

高額な費用をかけなくても、通学や住民の憩いに適した小径はできるのではないのでしょうか。

【回答】

ご意見をいただきました、長野電鉄屋代線跡地を利用した自転車歩行者専用道の整備につきましては、設計の段階から検討会議及び検討部会を組織し、地元区や小学校をはじめとした関係団体から意見聴取を行っております。ここでの意見を設計に反映させ現在工事を進めているところです。

意見の主だったものは、道路利用者の安全の確保や防犯面、整備後の維持管理面などであります。これらの意見を反映させ、通行区分の表示、防犯灯やフェンスの設置、長野電鉄屋代線跡地の全面活用など、現在の道路構造としております。

また、現在工事途中の屋代中学校から倉科踏切の区間については、完成後に屋代小学校の通学路に予定されています。整備が進むにつれ路線の連続性が高まり利便性が向上することで、利用者が増加すると考えております。

今後も地元区などの関係団体から意見を聴取し整備を進めてまいりますので、引続きご理解とご協力をいただけますようお願い致します。